

1 日 時 令和6年3月12日(火)18:30~20:00

2 場 所 中央西福祉保健所 2階会議室

3 出席者 25名(委員14名、事務局11名)

◆委員(敬称略)

○医療・保健関係

宮内 博史 〈吾川郡医師会長〉
山崎 冬樹 〈高岡郡医師会副会長〉
濱田 卓也 〈仁淀歯科医師会長〉

○福祉関係

西森 啓助 〈中央西ブロック民生委員児童委員協議会長〉
織田 ひとみ 〈高知県介護支援専門員連絡協議会中央西ブロック世話人〉

○行政関係

岡林 輝 〈土佐市健康づくり課長〉
田中 祐児 〈土佐市長寿政策課長〉
金子 剛 〈いの町ほけん福祉課長〉
日浦 けさお 〈仁淀川町健康福祉課長〉
岡崎 省治 〈佐川町健康福祉課長〉
西森 政利 〈越知町保健福祉課長〉

○地域組織・団体、住民の代表

内田 知行 〈日高村商工会事務局長〉
西森 勝仁 〈佐川町よさこいクラブ連合会長〉
加藤 良子 〈中央西地区食生活改善推進協議会長〉

◆事務局

○中央西福祉保健所

竹村 朱美 〈中央西福祉保健所長〉
福永 一郎 〈保健監〉
平石 雅孝 〈次長(総括)〉
濱田 純 〈次長兼地域支援室長〉
田内 佳子 〈健康障害課長〉
平松 佐穂 〈衛生環境課長兼チーフ〉
武内 誓 〈総務保護課長〉
沖本 敦子 〈健康増進担当チーフ〉
中岡 朋子 〈地域支援担当チーフ〉
今井 希美 〈母子・感染症担当チーフ〉
山下 政文 〈地域連携担当チーフ〉

会次第

- 1 開 会
- 2 中央西福祉保健所長挨拶
- 3 議 事
 - (1) 中央西福祉保健所 令和5年度の重点的な取組の実施状況
 - ◇日本一の健康長寿県づくり
 - ①健康寿命の延伸に向けた意識醸成と行動変容の促進
 - ②高知版地域包括ケアシステムの構築の推進
 - ③「高知型地域共生社会」の推進
 - ④子どもたちを守り育てる環境づくり
 - ◇南海トラフ地震対策の推進

議事（意見交換等）

- (1) 中央西福祉保健所令和5年度の重点的な取組の実施状況
 - ◇日本一の健康長寿県づくり
 - ①健康寿命の延伸に向けた意識醸成と行動変容の促進
事務局説明

・A 委員 [働きざかりの食生活の改善について]報告

令和5年度のヘルスマイトの事業で、「全世代に伝えよう、健康寿命延伸プロジェクト」として、若者世代、働き世代、高齢世代の3つの世代に食生活改善を伝える取組がある。

今回、仁淀川町では、中学校の教職員を対象として、学校の夏休み終盤に学校訪問を行い、働き世代のための生活習慣病予防についての講話と、減塩、野菜もう一皿などの説明と、減塩味噌汁や簡単料理の試食を行った。参加者アンケートでは、「野菜を多く食べる必要性を意識できた。」、「家族や他人にも伝えたい。」、「高血圧を治したい。」、「簡単料理の実践方法を試してみたい。」などの意見が出た。

こちらの印象としては、若い先生が多くいる中、朝食抜きの方がいるのが気になったところ。

また、中央西の取組に「うす味・もち味・ほんとうの味」の普及活動として、働き世代への事業所訪問の取組がある。今回初めて、大渡ダム管理事務所を訪問することし調整したところ、快く受けてもらい実施することができた。内容は、生活習慣病、糖尿病、メタボ予防、高血圧予防についての講話と、薄味減塩の簡単料理の試食や高血圧予防のチラシを配付。また、仁淀川町の保健師が入り、若い世代からの血管予防の大切さや、高知県の現状の講話をしてもらった。参加者からは、「食生活を気にする必要があると感じた。」、「主人が濃い味が好きだが、薄味がよいと実感した。」などの意見があった。

こちらの印象は、男性社員が多いことから、これからも継続して周知していかなければと思った。

土佐市のヘルスマイトの報告では、土佐市教育研究所を訪問し、野菜たっぷりの減塩弁当と味噌汁の試食。レシピの紹介や減塩啓発チラシなどの配付を行った。参加者からの意見は、「知識としては知っていたが実際の味をお弁当で試食できてよかった。」、「味噌汁の味は薄味より[うまあい]

を大事に減塩を心がけたい。」などの意見が出たとのこと。ヘルスメイトとしては、1日の目標摂取量（食塩：男性7.5グラム、女性6.5グラム、野菜：350グラム）を知らない方が多いことを実感したので、浸透するには、これからも継続しての啓発が必要だと思ったとのことであった。

今後の課題としては、我々は今後も多くの事業所訪問をしていく必要があるが、時間的なことや作業場に入ることが難しいなどのことが多々あるので、行政や商工会などの協力をいただきたい。

②高知版地域包括ケアシステムの構築の推進

事務局説明

・B 委員 [医療と介護の連携について]報告

今年度、「第9期介護保険事業計画」の策定ということで、色々な学習をしている。土佐市の訪問看護については、高知市医師会の「訪問看護ステーション土佐」に委託しており、例年同額の予算を組んで来たが、来年度は見直すこととしている。医療と介護の連携については一体的事業として大変重要であるので、今後は、個々ではなく総合的に見ていかなければならないと考えている。

③「高知型地域共生社会」の推進

事務局説明

・C 委員 [「第4次 佐川町地域福祉アクションプラン」の取組について]報告

今回作成した「佐川町地域福祉アクションプラン」は、令和6年度より第4次計画となる。

佐川町の特徴としては、町内5地区毎の人の繋がりを大切にされた地域づくりの取組が主体となっており、5地区毎に住民組織があり、さらに住民活動拠点であったかふれあいセンターがあり、それぞれの地域性を活かしたイベント等を実施している。

第4次計画では少子高齢化問題や、能登半島地震を教訓とした、南海トラフ地震対策といった、官民一体となった取組が求められている。

5地区において2回の「未来トーク」を実施し、各地区毎に重点目標を設定して取り組むこととしたのが、この「佐川町地域福祉アクションプラン」である。

全体の基本構想には、「ささえあい かんじるぬくもり わがまちさかわ」を掲げ、全体の重点目標には「みんなが笑顔で暮らせるまち」、「みんなで作る自然豊かな安心安全のまち」、「みんなが主役、地域おこしで元気なまち」の3つの目標を設定している。

また、当アクションプランの中に、地区毎の計画を作成しており、例えば、佐川地区計画であれば、目指す姿・スローガンに「人とひとつながれひろがれ我が町佐川」とし、重点目標には、「つながり深める交流の機会づくりと拡大」、「みんなが笑顔で暮らせる地域づくり」、「子育てしやすく若者が愛着をもてる地域づくり」の3つを設定し活動していくこととしている。このように、今後も幸せなまっづくりに取り組んでいきたいと考えている。

④子どもたちを守り育てる環境づくり

事務局説明

・D 委員 [こども家庭センター設置に向けた取組について]報告

(D 委員欠席のため事務局代読)

日高村の子育て支援は、妊娠期から始まり、保育園、小中学校、高校進学にまで多岐に及ぶ。ライフステージに応じた各々の段階で、一貫した支援を展開している。

切れ目のない支援を行うべく、特に母子保健としては、母子手帳発行時より伴走型支援を開始し、関係性を構築しながら出生後の支援を行っている。そして児の成長発達を確認するために、乳幼児健診においては、児の成長の早期把握に努め、様々な関係機関、専門職との連携のもと、成長発達を促す関りを行っている。また、小規模市町村の特性を生かし、顔の見える関係性を大切に、3歳児健診以降は教育委員会への情報の引継ぎを徹底し、乳幼児期から学童期への移行支援を行っている。

各ライフステージで関わる子どもたちの発達状況によっては、支援のタイミングを逃さないように、早期に障害児支援担当と連携し、必要な支援を展開し、より専門的な療育支援につなげている。

さらに福祉サービスのみならず、教育機関や医療との連携の中で、児とその家族を中心とした支援体制を構築し、幼少期より構築した関係性をもとに、学童期以降の就労支援へと展開している。

今後は、今まで取り組んできたことを活かし、令和7年度の子ども家庭センター設置に向けて、庁内での検討を進めていきたいと考えている。

◇南海トラフ地震対策の推進

事務局説明

・E 委員 [土佐市における災害医療対策に係る取組について]報告

本年度は、「医療救護行動計画」のバージョンアップと、「災害時医療救護計画」の改定を行った。本市の災害時に行う医療救護については、「土佐市災害時医療救護計画」を平成25年3月に策定し、高知県の計画との整合性を図るため、県の改定毎に見直しをしてきた。平成27年にはL1レベルの被害想定で「医療救護行動計画」を策定したが、今回は、近年の災害規模の拡大によりL2レベル対応でのバージョンアップを施している。中身はL2の人的被害想定が平成25年5月の公表により、本市での死者数が2,400人、うち数は、津波被害で2,300人、建物倒壊で100人となっている。負傷者総数については1,100人、うち数は、津波で140人、建物倒壊で980人となっている。

また、隣の須崎市では、病院が津波浸水区域にあるため、須崎市からの重傷者が想定103名、軽傷者が204名の方が土佐市に来ることも想定している。

人的被害想定については、県でも更なる見直しが行われるとのことで、今後それに合わせてバージョンアップをしていく必要があると考えている。

「災害時医療救護計画」については、昨年度土佐市では、新たに井上病院、白菊園病院を救護病院に指定したところで、本年度、災害拠点病院の土佐市民病院から、医療機関同士の情報連携をどうするのかという提案もあり、2月29日に中央西福祉保健所も入り、3病院の院長等責任者が集まったの顔合わせを実施したところである。

今後は、具体的にどうしていくかについての検討を進めていくこととして、平時の日中に発災すれば人的要件は整っているが、夜間・早朝に発災した場合の人的なものをどうするのかなどについても、考えていかなければならない。

また、井上病院、白菊園病院が救護病院としての役割がどうかなど、今後丁寧に説明しながら取り組んで行く予定としている。